

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年3月13日
函館市立万年橋小学校

1 本年度の重点教育目標

「自立」「共鳴」「語先後礼」

2 本年度の取組の重点

①教科指導と生徒指導の一体化の推進 ②学校教育におけるユニバーサルデザインの推進
③地域とともにある学校教育の推進 ④チーム万年橋の継続

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
1 授業改善の一層の推進（「何を学ぶか」から「どのように学ぶか」へ、「Teaching」から「Coaching」へ）	主體的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けて、ICT機器を活用した「指導の個別化」と「学習の個性化」による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図れたか。	b	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適を意識できた年度だった。自分の授業の中に協働的な学びを設定する場面が少ないため、これからの授業で充実させていきたい。日常的な授業参観ができていないので、学校全体の状況は分かりません。 ICT機器は新しいものを、まだまだ活用させなければならないと感じている。機器を使ってではない部分は近づけるよう日々推進している。 達成できていた。Canvaで作成したスライドをモニターに映して、学習のめあてや進め方などを視覚化・共有化し、学習の見通しを持たせた。その上で、ICTの活用はあくまで補助手段と捉え、自分の考えをノートにまとめたり、丁寧に文字を書いたりする「書く活動」を授業の核心に据えた。 人数の少なさから、個別最適な学びについてはある程度の充実を図ることができた一方で、協働的な学びについては難しさがあった。学年を越えて取り組める課題を設定するなど、少ない人数の中でもできる工夫を考えていく。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> AI技術ですべて回答が出るが、今の子供たちは自分でしっかり考えることや自分で書くことを（大人もなかなか文字を書かなくなってきた）身に付けてほしい。 授業参観でも拝見し、Chromebookの活用、Canvaで作成した資料作りに一人一人素晴らしい作品ばかりでした。グループワークなど、他者の意見も取り入れるなどして、協働的な学びにつながると思います。
	児童のメタ認知を育成し、自己評価や振り返りを通じて、一人一人に合った学習活動や学習課題に取り組ませることで、児童自身が自分の学び調整する力(自己調整力)を養うことができたか。	b	<ul style="list-style-type: none"> より効果的な振り返り、そして次につながるような振り返りになるよう試行錯誤できた。 校内研修等の時間を活用しながら、自己評価や振り返りの大切さについて共通認識を図ることが出来た。自己調整力をどこまで養えたかという点では課題が残るが、共通理解を図る場を設定していくのは今後も継続していくことが望ましいと考える。 達成できていた。さらにふり返し活動を充実させるなら、「ふり返し」を単なる感想に終わらせず、「めあて」と「まとめ」を、自分自身の言葉で結びつけるものとして確立する必要がある。 学習・活動の振り返りについてはできる範囲で取り組みを進めている。自分を客観視することはまだ難しく、教師が見取った「できたこと・頑張ったこと」を伝えたりする中で、少しずつ自身の成長に気づくことができるようにしていきたい。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> みんなが一緒という考えではなく出来る範囲でと考えてくれることはうれしい。 できていない子に対して「なぜ、できないのか」ではなく出来ている部分から「やる気」を伸ばす言葉かけをしてあげると成長につながると思います。
②家庭学習の質と量の充実	「家庭学習の取組」「おすすめ学習メニュー」等を活用した指導を年度初めから継続的、重点的に実施し、「学年×10分+10分」の目安の達成を図ることができたか。	b	<ul style="list-style-type: none"> 10月頃から週二回家庭学習に移行したが、全員が取り組んでいるわけではない。しかし、自分で学習内容を調整しようとしている児童もいた。家庭学習をクラス内で交流し、学びを広げていく必要がある。 個人差があると思うが、おお 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 学ブンジャーは働いている保護者の方は取り組みが難しいと耳にしました。

			<p>むね達成できた。また啓発を行うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の取り組み状況について交流する場があってもいいのではないか。(クラスによって取り組み方に差がないか、発達段階に即した取り組み方が出来ているかどうかお互いに確認する場があった方がいいのではないか。) ・宿題プリントに継続して取り組ませてきている。時間的な目安の達成は難しい部分もあるが、継続して家庭(放課後デイ等含む)での学習習慣の定着は図られてきているように感じているため、これを継続していく。 ・まだ、差を感じることもあるが一定の量をこなせる子が増えてきている。家庭学習の交流を教室で行ってきたが、学ブンジャー本部の活用をもう少し呼びかけていきたい。 			
	<p>「学ブンジャー」の取組への指導と、家庭への協力依頼を強化し、取組状況に応じた個別指導の継続と、取組結果の家庭へのフィードバックを通して、家庭との情報共有を図ることができたか。</p>	a	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの個人懇談で、学校での学習の様子や宿題(家庭学習)の取り組みを家庭にも情報共有をしていきたい。また、自己調整が苦手な児童の保護者には、例を見せるなどしていきたい。 ・「学ブンジャー本部」がより有効に活用されるよう定期的な声かけが必要。 ・家庭学習の取組を家庭にフィードバックして情報共有を図ることはできたと思う。 ・学ブンジャーの取組では、家庭からの協力を得ることができた。家庭でも、児童と一緒に楽しみながら活動に取り組むことができた、との感想が聞かれた。継続して取り組んでいきたい。 ・親が、子の取り組みの様子をより詳しく見てもらう点では効果を感じる。家庭によるばらつきはどうしてもあるが、児童もこの期間は観念して学ぼうとしているのでいいと思う。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「やらされている」感があると続かないと思うので、自主的にやりたいと思えるようなかかわり方や声かけ、内容であってほしいと思います。習慣づけが学習にも大切だと思うので。 ・大変な中、一人一人にコメントがあったり対応してくれていると思うのですが、大切なことだと思う。
③学習規律の定着の徹底	<p>「万年橋スタンダード」のスケジュールに沿って指導内容の重点化を図りながら、定着の状況を学級で振り返り、定着に向けて繰り返しての指導を徹底することができたか。</p>	b	<ul style="list-style-type: none"> ・担任も子どもたちも「万年橋スタンダード」が理解できていなかった。スケジュールも月ごとに学習目標を設定・掲示し、振り返りをする方法もいいのではないかと考える。これからも、月ごとに「万年橋スタンダード」を確認していきたい。 ・都度確認する習慣をつけたことで、身につけてきていると感じる。 ・児童一人ひとりの理解の程度が異なるため、すべてにおいてスケジュールに沿うことはできていなかったが、児童の実態を把握しながら、重点的に指導する部分、簡単に触れるだけの内容…と、軽重を図りながら指導してきた。 	A	A	
	<p>子供同士で話し合う活動を通し、学級として、あるいは、個人として努力すべき約束事に気付かせながら、学級のルールの定着を図ることができたか。</p>	a	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合う場面を設定することができた。だが、担任が何を定めるのか明確にしてあげるなどのサポートも心がけて取り組んでいきたい。 ・発達段階を考えると、達成できたと思う。 ・話し合いまでは至らないが、互いの意見や考えを聞き合う場面を少しずつ設定してきている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちと同じだが、導き方が大事だと思います。自分たちで導いた答えや決めたことは、忘れにくいし、守ってくれます。
④基本的な生活習慣の定着	<p>朝の教師自らの語先後礼の継続による挨拶の意識の定着化、授業の開始と終了の語先後礼によるけじめ意識の醸成を実施し、学習規</p>	a	<ul style="list-style-type: none"> ・まだまだ担任も意識できていない時があるので、意識して取り組んでいきたい。また、1・2時間目が同じ授業の時など、授業の挨拶を省くことがあった。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・当たり前に行っていることはすばらしいが、あいさつも心がこもっていることや相手を思いやる気持ちであることを知ってほし

	<p>律（姿勢、返事等）の定着と並行した指導を行うことができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・登校時に、児童玄関前、玄関ホールで（特に分担等はないのだが）先生方が児童の様子を見守り、挨拶していただきありがとうございます。学級の様子や実態に応じて教室で見守りたいという考えもあるので。担任以外の先生と朝の挨拶をすることについて児童も喜んでいる。 ・全校が「当たり前」になっているように感じすばらしいと思う。 ・達成できていた。「元気よく」という活発さ以上に、「礼儀正しく」振る舞うことの価値を重視し、教師自らの語先後礼を徹底した。挨拶や授業の開始・終了時に言葉と礼を分ける所作を繰り返すことで、子供たちの意識に明確な「はじめ」が生まれ、落ち着いて学習に臨む態度が養われた。形式的な元気さではなく、相手を敬い、自らを律する「礼儀」としての規律が定着しつつある。 活発さの中に埋もれがちな「礼儀正しさ」や「はじめ」の重要性を、改めて全校の共通認識とする必要がある。声の大きさや勢いに頼る指導から脱却し、「礼を正すことで心を整える」という本質的な指導を学校全体で一貫させる必要がある。 ・繰り返しの指導により、学習規律について改善が見られつつある。今後も継続して指導にあたっていく。 			<p>い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの中にしっかりはじめがあると感じられる。 ・子供たちの挨拶はいつも元気で笑顔の子が多くすごくいい取り組みだと思います。
	<p>「早寝早起き朝ごはん」等の健康的な生活習慣形成に向け、登校時の指導の徹底、情報モラル教育の充実 (e.g. 「親子DE学ブンジャー」の活用)、養護教諭による保健指導や栄養教諭による食育指導の実施および家庭への啓発を図ることができたか。</p>	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々、話題にし、未然防止を心がけていたが、いくつかの事例が発生した。情報モラル教育の大切さを実感した。 ・今年度も、児童の実態を考慮し、宿泊研修前に行っていた保健指導（男女別）を前倒しして、長期休み前に行った。養護教諭による指導は大変ありがたい。 ・生活（メディアオフや朝食摂取）については、個人懇談に向けて担任への情報共有はできた。栄養教諭による食育は6年生で実施することができた。 ・親子DE学ブンジャーの取組では、いずれの家庭でも積極的に取り組んでいただいている。日常の雑談で、朝食について話す機会もあるが、食べていない、プリンやヨーグルトだけ、などの返答が聞かれることもあり、その都度児童に対しては朝食をとることの大切さについて話すよう心掛けている。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食抜きの親が多い中難しいとは思いますが、今から一人一人その大切さや必要性を理解できると、将来的に習慣につながるのではと思います。
<p>⑤個に応じた支援の継続</p>	<p>「温かい肯定的な雰囲気」の「集中できる環境」で展開される「わかりやすい授業」づくりに向け、教員間の日常的な授業参観による交流を図ることができたか。</p>	<p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> ・余裕がなく、普段の授業参観はできなかった。時間を設定する ・テストを実施している時の隙間時間に参観するなど、何らかの工夫が必要だと感じた。（人がいないので、全教職員で取り組まなければならない。） ・教員間の授業参観は、担当が日程調整をしてくれ大変だったと思うが実施できてありがたかった。 ・研修の際は、できるだけ足を運ぶようにし、他学級の良さや他教師の良さを自身の実践に生かすように心がけた。 ・校内研修等で、互いの授業作りについて交流し合う場面があったのがよかった。 ・教室環境の整備等を心がけ、集中できる環境となるよう心掛けている。今後も児童が気をとられるもの等があれば、取り除いたり目につかないところに 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい授業ではCSからキャリア教育の面で外部から授業での専門の講師を招いて授業を行うことで先生方の負担も減るのではないのでしょうか。 ・とても温かみのある学校だと感じています。

			置いたりするなど、改善していく。 ・教室を開けるために割ける人員の確保も難しくあまり、お互いに授業を見合う状況をつくる難しさを感じた。しかし、去年より研修部のアナウンスが多くあったので雰囲気は作れていたと思う。			
	算数科における <u>少人数指導</u> 、 <u>TT指導</u> を導入し、 <u>基礎・基本の定着</u> を図ることができたか。	a	・算数の少人数指導は今後も続けてほしい。 ・入って頂いたときは、とても助けられた。3学期も児童の学力定着のために協力していきたい。 ・研究部の授業参観の案内やOPPシートの活用の仕方の交流が順次行われていた。	A	A	
6 地域との連携の継続	・町会や地元企業、教育大学等と連携した本校ならではの教育の推進を継続しつつ、 <u>教育活動のねらいに立ち</u> 、 <u>学校と地域の両者の立場や負担を明らかにした教育計画・記録の作成</u> を図ることができたか。	b	・放課後子ども教室の運用については、改善点があるように感じる。トイレの使用場所（2階、3階に行っている）や体調不良やけがの対応について、組織内（子ども教室の指導員）の確認や子どもへの指導が必要ではないか。 ・地元企業や公的機関との連携により、様々な教育活動を推進することができた。単年で終わるものなのか、継続して行うものなのかを確認し、次年度に位置付けていくことが必要だった	A	A	・放課後子ども教室は、子ども未来部の管轄で学校を借りていることを保護者や子供にも今後伝えていくことが必要。 ・放課後子ども教室では、指導員にも子どもに対してなど、説明が必要だと思います。
	・五稜郭ネット小中一貫教育の目的実現に向け、経営部会、まなび部会、つながり部会、くらし部会での <u>共有事項との連携</u> による、 <u>小中の滑らかな接続</u> を図る。加えて、 <u>幼保小連携</u> に向け、 <u>かめだ認定こども園との連携による「架け橋プログラム」の充実</u> を図ることができたか。	b	・様々な機会を利用して、幼保小や小中の連携を感じることができた。それにより、架け橋プログラムの充実が図れると思われる。 ・幼稚園・子ども園との連携により、幼少連携を図ることができた。また、中学校での参観を通して、中学校の実態を知り、児童が進学した際に必要となる力について知ることができた。今後も継続して取り組んでいくことが必要と考える。	A	A	
⑦劣後の優先順位意識の徹底（働き方改革の定着に向けて）	行事に向けた特別日課の最適化を図り、 <u>学習や生活のリズムの揺れを最小限とするよう</u> 、 <u>教育活動のねらいに立ち</u> 、 <u>活動内容の見直しを推進</u> できたか。	b	・行事に向けた日課作りに向けては、揺れが少なくなるように提案されていた。 ・大きな行事の内容については、少しずつ見直しをしていくことが必要と感じた。	A	A	・学習発表会后などでも、授業に落ち着いて取り組んでいてよかったです。
	教師主導の指導（全てを指示する指導）からの転換に向け、 <u>効率化を図りつつも</u> 、 <u>子供の主体性や協働性を高める指導</u> を学校全体で推進したか。（「 <u>労少なく功多し</u> 」に向けて）	b	・授業の中でも、教師主体にならないように意識はしています。これからも、単元によって、子どもたちが主体・対話・協働できるような授業を設定していきたい。 ・児童の理解の程度を確認しながら、内容について進んだりできていない部分については戻ったりしながらの取組のため、なかなか児童主体で進めることは難しい。	A	A	・先生方の意識がうかがえています。変化を感じます。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。